科目名 （英）	統計学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	坪田　美奈子
		授業形態	講義				
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	月曜/2限

講師紹介	大学受験予備校で受験指導と教科（英語、数学、生物、化学）学習支援を業務とし、23年務める。並行して2012年より地域で個別学習塾を運営。
目的	医療現場では事務的な場面でいろいろな統計処理が必要となる。その中でも特に診療情報の整理や集計分析が求められる。それらに役立つ統計学の基礎を身につける。
科目概要	各種データのまとめ方、読み取り方を学び、統計学の基礎を理解する
到達目標	医療分野における統計学の必要性を理解し基礎的な統計処理ができるようになる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	統計学の図鑑	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を図る。
参考図書			
特記事項	自作プリントの配布		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	講義	いろいろなデータの分布 （度数分布表とヒストグラム）
2	代表値	講義	平均、中央値、最頻値など基本的な位置を表す指標を知る
3	四分位範囲と箱ひげ図①	講義	散らばりの指標その1、範囲・四分位範囲から箱ひげ図を作成
4	四分位範囲と箱ひげ図②	講義	ヒストグラムと箱ひげ図、有効数字
5	分散と標準偏差	講義	散らばりの指標その2、データの散らばりの大きさを表す
6	2つのデータの相関	講義	正の相関と負の相関
7	散文図と相関係数	講義	散文図において、相関関係の度合いを数値で表す
8	復習試験	講義	第1回～第7回の総復習
9	確率の基本	講義	統計学で確率が必要な理由を知る
10	正規分布	講義	不確実な出来事を確率で考える
11	標本調査	講義	データを作る、調査の方法を知る
12	推定値と標本誤差	講義	調査結果の誤差を知る
13	仮説検定	講義	標本から仮説の真偽を判断する
14	クロス集計	講義	クロス表の作成とそれを利用した検定
15	定期試験	講義	

科目名	心理学　Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	福井　博一
		授業形態	講義		有		
（英）	Psychology　Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	水曜日／2限

講師紹介	保有資格：公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士 略歴：精神病院、総合病院精神科、企業の相談室等で、カウンセリングや心理検査を行い豊富な実務経験を有する。講師として、専門学校をはじめ大学・大学院等において、心理学や臨床心理学の講義を行ってきました。
目的	2年生では、臨床心理学を学びます。それにより、対人援助職である視能訓練士として、心の健康・心の病気、及び、支援の方法について理解し、説明することができるようになることを目的とします。具体的には、多様な環境に置かれた、あらゆる世代の人々の心の健康・心の病気について学習することにより、資格者として、援助を求める人々と実践的にかかわることができるようになるための基礎を身に付けることを目的とします。
科目概要	心理学の中でも、特に、臨床心理学を中心に据えて、幅広い視点で人の心をとらえていきます。
到達目標	視能訓練士は、れっきとした対人援助職です。 皆さんが資格者としてかかわる人々は、たんに視覚によってのみ生きているわけではありません。目は、その人の一部にほかなりません。 その人そのものとかかわるために、聴くこと、知ること、考えること、理解すること、そして実践することができることを到達目標とします。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	特に指定しません。講師作成の資料を配布します。	事前事後学習とその内容	予習は必要ありません。復習をしっかりと行ってください。 また、授業で学習した事柄を、日常生活にあてはめて考え、実践することは、とても重要な事後学習になります。
参考図書	適宜紹介します。		
特記事項	学生の皆さんには、授業中、折に触れて資料を読んでもらうなり、意見等・声をあげてもらうなりしながら進めます。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	臨床心理学概説・心の病気～その1～	講義	・臨床心理学を学ぶ目的・予定・方法について説明する。 ・心の病気を学ぶ時の注意点について説明する。 ・統合失調症について説明する。
2	心の病気～その2～	講義	・うつ病・躁病について説明する。 ・うつ病・躁病の治療について説明する。
3	心の病気～その3～	講義	・認知症について説明する。 ・認知症の非薬物療法について説明する。
4	心の病気～その4～	講義	・発達障害について説明する。 ・発達障害児・者の支援について説明する。
5	心の病気～その5～	講義	・知的障害について説明する。 ・知的障害児・者の支援について説明する。
6	心の病気～その6～	講義	・恐怖症・パニック症・強迫症について説明する。 ・恐怖症・パニック症・強迫症の治療について説明する。
7	心の病気～その7～	講義	・摂食障害について説明する。 ・摂食障害の治療について説明する。
8	復習試験	講義	・1回目から7回目までの復習を行い、試験を実施する。
9	心の病気～その8～	講義	・性別違和について説明する。 ・性別違和に悩む人々の支援について説明する。
10	心の病気～その9～	講義	・PTSDについて説明する。 ・PTSDの治療について説明する。
11	心の病気の支援～その1～	講義	・行動療法について説明する。 ・行動療法を用いた治療について説明する。
12	心の病気の支援～その2～	講義	・芸術療法について説明する。 ・芸術療法を用いた治療について説明する。
13	心の病気の支援～その3～	講義	・プレイセラピーについて説明する。 ・プレイセラピーを用いた治療について説明する。
14	心の病気の支援～その4～	講義	・燃え尽き症候群について説明する。 ・仕事で困ったときの対処法について説明する。
15	定期試験	講義	・定期試験を実施する。

科目名	生物学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	佐藤　麻衣
		授業形態	講義		－		
（英）	biology	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	水曜1限 対面

講師紹介	薬剤師免許を有し、病院や調剤薬局などでの職歴のある講師が、実務経験で取得した知識をもとに、生物学をわかりやすく講義する。
目的	国家試験合格を目指し、その目標に向けての基礎学力を培う。
科目概要	生物学の全体像を理解する。
到達目標	医療に関わる上で最低限必要な生物学的知識を取得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	生物図録（数研出版）	事前事後学習とその内容	事後学習として、アンダーラインを引くよう指示した箇所を見直し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	筆記用具（マーカーor色ペン）を必ず用意すること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	細胞と分子、細胞を構成する物質	講義	いろいろな細胞を理解する
2	細胞の構造とはたらき	講義	細胞の微細構造を理解する
3	細胞膜を介した物質輸送、細胞への物質の出入り	講義	組織の物質輸送、膜の透過性を理解する
4	動物個体の成り立ち	講義	動物の組織・器官・個体を理解する
5	代謝	講義	体やエネルギーをつくる仕組みを理解する
6	呼吸のしくみ	講義	からだは食べ物からどのようにつくられるかを理解する
7	呼吸のしくみ	講義	からだは食べ物からどのようにつくられるかを理解する
8	復習試験	講義	第1回～第7回の総復習を行う。
9	遺伝情報の発現	講義	細胞分裂
10	生物の生活と環境	講義	体内環境としての体液を理解するを理解する
11	生物の生活と環境	講義	ホルモンによる調節を理解する
12	生物の生活と環境	講義	免疫による調節を理解する
13	生物の生活と環境	講義	体液の恒常性、消化吸収を理解する
14	生物の生活と環境	講義	神経による調節を理解する
15	定期試験	講義	

科目名	内科学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	佐藤　麻衣
		授業形態	講義		－		
（英）	Internal Medicine	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	水曜/1限

講師紹介	薬剤師免許を有し、病院や調剤薬局などでの職歴のある講師が、実務経験で取得した知識をもとに内科学をわかりやすく講義する。
目的	国家試験合格を目指し、その目標に向けての基礎学力を培う。
科目概要	1年の病理学の学習を基礎として、さらに深い知識を得る。
到達目標	医療に関わる上で最低限必要な内科学的知識を取得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	標準理学療法学・作業療法学　内科学（医学書院）	事前事後学習とその内容	事後学習として、アンダーラインを引くよう指示した箇所を見直し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	筆記用具（マーカーor色ペン）を必ず用意すること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	呼吸器疾患	講義	呼吸器感染症やそのほかの肺疾患について理解する
2	呼吸器疾患、循環器疾患	講義	呼吸器感染症やそのほかの肺疾患について理解する、生活習慣病のもとになる病態や心疾患について理解する。
3	循環器疾患	講義	生活習慣病のもとになる病態や、心疾患について理解する
4	血液・造血器疾患	講義	血液・造血器疾患の原因や分類を理解する
5	自己免疫疾患・アレルギー疾患	講義	アレルギー・自己免疫疾患とは何か、その分類を理解する
6	自己免疫疾患・アレルギー疾患	講義	アレルギー・自己免疫疾患とは何か、その分類を理解する
7	感染症	講義	感染症の検査・治療・分類などを理解する
8	復習テスト	講義	第1回～第7回の総復習を行う。
9	消化管疾患	講義	消化管疾患の分類・病態を理解する
10	代謝疾患	講義	代謝疾患とは何かを理解する
11	内分泌疾患	講義	内分泌疾患とは何かを理解する
12	肝胆膵疾患	講義	肝胆膵疾患とは何かを理解する
13	肝胆膵疾患、腎・泌尿器疾患	講義	肝胆膵疾患とは何かを理解する、腎・尿路疾患の分類などを理解する
14	腎・泌尿器疾患	講義	腎・尿路疾患の分類などを理解する
15	定期試験	講義	

科目名	病理学（疾病学を含む）	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	佐藤　麻衣
		授業形態	講義		－		
（英）	pathology	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	水曜1限 対面

講師紹介	薬剤師免許を有し、病院や調剤薬局などでの職歴のある講師が、実務経験で取得した知識をもとに、病理学をわかりやすく講義する。
目的	国家試験合格を目指し、その目標に向けての基礎学力を培う。
科目概要	病理学を通して、疾病について広い知識を得る。
到達目標	医療に関わる上で最低限必要な病理学的知識を取得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	系統看護学講座　病理学（医学書院）	事前事後学習とその内容	事後学習として、アンダーラインを引くよう指示した箇所を見直し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	筆記用具（マーカーor色ペン）を必ず用意すること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	病理学とは何か、疾病の原因	講義	疾病の原因を理解する
2	疾病の原因	講義	疾病の原因（外因など）、分類を理解する
3	血液の循環と循環障害	講義	心臓、血液の循環、循環障害を理解する
4	血液の循環と循環障害	講義	心臓、血液の循環、循環障害を理解する
5	炎症	講義	炎症とは何か。種類などを理解する
6	免疫	講義	免疫のしくみを理解する
7	免疫、アレルギー	講義	アレルギーとは何か、アレルギーの種類を理解する
8	復習試験	講義	第1回～第7回の総復習を行う。
9	炎症、免疫、感染症	講義	炎症、免疫、感染症を理解する
10	感染症	講義	感染症とは何か。原因、感染経路などを理解する
11	代謝障害	講義	代謝障害の種類、特徴を理解する
12	代謝障害、老化	講義	代謝障害と老化の特徴を理解する
13	染色体、遺伝子異常、腫瘍	講義	染色体、遺伝子異常の種類、特徴を理解する
14	腫瘍	講義	腫瘍の種類、特徴を理解する
15	定期試験	講義	

科目名	医療と安全	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	今井　由惠
		授業形態	講義		－		
（英）	Clonical Safety	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	1			曜日/時間	木曜日/3限

講師紹介	保育士資格・幼稚園教諭2種免許を所持、百貨店勤務、一般企業を経て、医療秘書・医療事務の資格を取得。診療所、保険調剤薬局の保険請求業務を担当。現在も調剤薬局で勤務中
目的	医療は日々進化していきます。それとともに『これだけやればよい』ということはなく、安全で最良な医療を患者様に提供するためにはどうするか、常に更新しなくてはいけません。現場にでてからも逐一情報を更新・対応できるよう自分を磨く。
科目概要	『医療安全』を学ぶ
到達目標	医療を提供する側として、患者様への最良の医療を提供するためにはどうすればよいのか、患者様への対応をどうしたら一番よいのか、グループワークを中心に考察していきます。また、現在講師が勤務する調剤薬局での勤務時の患者様対応の問題点や安全対策の様々な例などを含め、医療を受ける側としても考察していきます。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	5日間で学ぶ医療安全超入門　配布資料　資料教材	事前事後学習とその内容	様々な規定を学ぶ。自分の意見をもち、他の人の意見をしっかり聞くとともに、ブラッシュアップをできるようにする。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	講義	『医療の安全とは何か』を考える
2	医療の質と医療安全 医療の安全管理と基礎知識	講義	『医療の質』と『安全とは何か』を理解する 医療安全の基礎知識、用語を理解する
3	医療安全と院内組織 ヒューマンエラーとシステム	講義	医療安全と院内組織。多職種連携での医療安全。患者参加と医療安全。患者・家族＝チーム医療の一員であることを理解する。 ヒューマンエラー、システムの関係を理解する。
4	内部・外部情報収集とその活用	講義	インシデントレポートと報告システムを知る 第三者機関と安全情報（院外報告）。有害事象に関する患者・家族への説明等、
5	事例の分析方法を知る	講義	事例の分析手法、様々な分析方法を知る。
6	事例考察	講義	事例考察を各班で行う
7	医療安全のためのチーム医療 身近な安全対策	講義	医療安全と院内組織。多職種連携での医療安全。患者参加と医療安全。患者・家族＝チーム医療の一員であることを理解する。 日々の安全対策を学ぶ。
8	定期試験	講義	

科目名	臨床関連医学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	脇雅子
		授業形態	講義				
（英）	Medicine Related to Clinical	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	月曜日2限

講師紹介	医学博士号を持ち、長年医学部で研究と教育に携わる、滋慶学園ならびに医療圏専門学校で基礎医学全般を教授する
目的	臨床関連医学は病気を理解するための基礎であり、視能訓練士として必要な病気の原因や特徴を理解する
科目概要	疾患を内科学的、病理学的、生理学的に理解する
到達目標	人体の構造と機能、病理学との相互関係を理解し、視能訓練士として必要な医学的・科学的知識を習得する。また、将来的に臨床現場で生かせるようにする
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	系統看護学講座　病態生理学　医学書院	事前事後学習とその内容	毎回必ず復習をし、小テストの誤りの確認もする
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	疾患を学ぶための基礎知識	講義	疾患の原因、正常と異なる点を理解する
2	循環器の仕組みと病態生理	講義	心臓の構造・っ機能、機能障害、血圧などを理解する
3	循環器の仕組みと病態生理	講義	心臓の構造・っ機能、機能障害、血圧などを理解する
4	循環器の仕組みと病態生理	講義	心臓の構造・っ機能、機能障害、血圧などを理解する
5	呼吸器の仕組みと病態生理	講義	呼吸器の構造、機能、疾患について理解する
6	呼吸器の仕組みと病態生理	講義	呼吸器の構造、機能、疾患について理解する
7	呼吸器の仕組みと病態生理	講義	呼吸器の構造、機能、疾患について理解する
8	復習試験	講義	前半の理解度を確認する
9	消化、吸収と病態生理	講義	消化器の構造、機能、疾患を理解する
10	消化、吸収と病態生理	講義	消化器の構造、機能、疾患を理解する
11	消化、吸収と病態生理	講義	消化器の構造、機能、疾患を理解する
12	神経、筋肉の仕組みと病態生理	講義	中枢神経、末梢神経の構造、機能、疾患を理解する
13	神経、筋肉の仕組みと病態生理	講義	中枢神経、末梢神経の構造、機能、疾患を理解する
14	泌尿器系の仕組みと病態生理	講義	泌尿器系の構造、機能、疾患を理解する
15	定期試験	講義	後半の理解度を確認する

科目名	関係法規と公衆衛生学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	伊藤　春雄
		授業形態	講義				
（英）	Related laws and regulations, Public Health	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科Ⅰ部	単位	2			曜日/時間	後期集中

講師紹介	保有資格：歯科医師。歯学部卒業、医学研究科大学院にて博士(医学)取得。地域で臨床を行いつつ、大学、専門学校にて本科目の教鞭を取り26年。
目的	視能訓練士の国家試験では、この科目名での出題はない。しかし、この科目の内容は出題されている。また、医療従事者として知っておくべき事柄が多く含まる。過去の出題を配慮した講義に努める。
科目概要	視能訓練士の全体像を理解するための、視能訓練士の業務内容と取得知識のオリエンテーション。
到達目標	視能訓練士に必要な公衆衛生学、関係法規に関する知識を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	「よくわかる専門基礎講座　公衆衛生」 金原出版	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	健康の概念　／　疾病予防　／人口統計	講義	健康の適宜や概念、予防の段階、人口静態・動態　について知る
2	人口統計　／地域保健	講義	生命表・生命関数、様々な健康指標について知る　／　地域保健について知る
3	疫学	講義	疫学の特徴、調査、指標、方法について知る　／因果関係について知る　／スクリーニングについて知る
4	母子保健	講義	母子保健の意義・対象・指標について知る　／国際的な母性に関する概念を知る　／行政における事業・施策について知る
5	学校保健　／　成人保健	講義	学校保健の意義・対象・行政、領域について知る　／　生活習慣病や加齢に伴う心身状態について知る
6	成人・高齢者保健	講義	生活習慣病、健康増進や疾病への対策を知る
7	感染症	講義	感染症の成立条件と予防対策、院内感染、感染症の動向、主な感染症について知る
8	復習試験	講義	
9	食品衛生・国民栄養	講義	食品衛生法と食品管理、国民栄養の概要や調査について知る　／食事バランスガイド等の施策、食品表示について知る
10	環境保健	講義	生活環境、地球環境・環境問題　について知る
11	社会保障・社会福祉／　関係法規①	講義	社会保障、社会保険、社会福祉制度　について知る 関係法規総論
12	精神保健・障害者保健／　関係法規②	講義	精神保健の意義、様々な精神障害について知る　／　地域の精神保健活動について知る 医療法規各論
13	精神保健の意義、様々な精神障害について知る　／　地域の精神保健活動について知る 関係法規③	講義	産業保健の意義、労災や安全管理体制、職業性疾病について知る 医療保険制度
14	国際保健 関係法規④	講義	国際保健の意義、国際協力と国際機関について知る 社会福祉制度
15	定期試験	講義	

科目名	障がい者支援学Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	押江　善正
		授業形態	講義		有		
（英）	Disabled support Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	集中

講師紹介	保有資格：介護福祉士、介護支援専門員、同行援護従業者養成研修応用課程修了、介護教員資格 略　　歴：H15より訪問介護員として、現在も在宅介護に従事し豊富な実務経験を有する。3つの事業所の管理をする中、人材育成の重要性を痛感し、非常勤講師としてヘルパー養成校の教壇に立つ。H27より事業所併設のヘルパー養成校を設立し、介護人財の輩出・育成をしている。R5.5より、訪問介護事業所を設立・運営をしている
目的	・本科目は、知識として学ぶというよりは、対人援助業務者として身につける（修得する）内容を示している。そのためには、知識的項目として表示されてはいないが、授業への参加そのものが学習内容と密接にリンクしているので、欠席しないように心がけてください
科目概要	臨床現場で関わる、高齢者や障がいを負ってしまっている方の背景を理解し、その方々に対して適切な介助方法・対応の仕方を身につける。個別援助の意義、尊厳の保持、デザインシンキングが理解できる
到達目標	対人援助職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づくことができる 人と接することとして、コミュニケーションの重要性、対人の個別性を理解し、その人を支えるという視点から支援を考えられる 高齢の方や障がいを負ってしまっている方への応対方法を身につけられる
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	「同行援護従業者養成研修テキスト（第4版）」 中央法規	事前事後学習とその内容	身近な障がい者を注視して、自身の活動と思いをあわせる
参考図書	なし		
特記事項	校外実技		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	視覚障がい者・児福祉の制度とサービス	講義	・日本の社会制度の理解ができる ・障害福祉の遍歴とサービスが説明できる
2	障がい・疾病の理解①	講義	・様々な障がい・疾病が理解できる ・障がいの分類と視覚障がい者の立場が理解できる
3	障がい・疾病の理解②	講義	・「見える」ということの理解 ・視覚障がい者の主な疾病が理解でき、説明できる
4	障がい者・児の心理	講義	・視覚障がい体験を通じ、視覚障がい者の見えない・見えにくさを理解できる ・障がいの受容過程を説明できる
5	同行援護従業者の制度と業務	講義	・同行援護従業者の倫理観を説明できる ・同行援護の制度を理解できる
6	情報支援と情報提供①	講義	・言葉による情報提供が理解できる ・移動場面における口頭での情報提供ができる
7	情報支援と情報提供②	講義	・状況、場面別での情報提供ができる
8	復習試験	講義	・復習と確認 ・復習試験
9	代読の基礎知識	演習	・代読の方法を理解し、情報提供できる
10	代筆の基礎知識	演習	・代筆の方法を理解し、代筆できる ・点字の基礎を理解できる
11	基本技能①	演習	・基本姿勢を身につけられる ・歩行、進む、曲がる、止まるが安全にできる
12	基本技能②	演習	・イスへの誘導ができる ・段差、階段の誘導ができる
13	応用技能①	演習	・環境に応じた歩行ができる ・ドアの開閉など
14	応用技能②	演習	・環境に応じた歩行ができる（郊外実技） ・トイレへの誘導ができる
15	定期試験	講義	・振り返りと実技の総演習 ・定期試験

科目名	ロービジョン医学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	塩田直子
		授業形態	講義		有		
（英）		時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	視能訓練士学科Ｉ部	単位	1			曜日/時間	金曜1、2限

講師紹介	保有資格：認定視能訓練士・相談支援専門員・介護支援専門員・同行援護指導者・盲ろう通訳 略歴：国立小児病院付属視能訓練学院卒業。都立府中病院、都立多摩総合医療センターにて視能訓練士業務。2016年よりNPO法人視覚障がい者ネットワークコトリナ設立。現在、8箇所の眼科にて視能訓練士業務を行い、豊富な実務経験を有する。視能訓練士養成校にて非常勤講師。
目的	視覚障害者の現況を学ぶ。 ロービジョンケアに必要な基礎知識を学ぶ。 ロービジョンケアの必要性、魅力を知り、視能訓練士としてロービジョンケアに関わる技術を習得する。
科目概要	眼科現場で、ロービジョンケアを行えるための基礎知識を学ぶ。
到達目標	視覚障害者の現況を理解する。 見えない、見えにくい世界を知り、視覚障害者に対する正しい知識を持ち、対等な人間関係を身につける。 視能訓練士にしかできないロービジョンケアを学ぶ。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	ポイントマスターロービジョンケア外来ノート	事前事後学習とその内容	配布資料による事前事後学習で知識の定着を図る
参考図書	ロービジョンケアの実際		
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ロービジョンのガイダンス	講義	・視覚障害の概要 □
2	ロービジョンケアの基本	講義	・基本の6項目を理解する　・眼科の役目 ・ニーズを引き出す方法
3	障害平等研修	講義	・障害とは何か、どこに障害があるのか。社会モデルの視点で考える。演習を含む
4	デジタルロービジョンケア	講義	・デジタル化が視覚障害リハビリテーションにもたらした変化とメリットを学ぶ。 ・視覚に頼らない iPhone操作を演習することで視覚障害者への情報保障の可能性を理解する。
5	診断書	講義	・視覚障害の等級。 ・症例を使って、等級を出せるようになる。
6	補装具と日常生活用具	講義	・補装具と日常生活用具の違い。制度。 ・道具によるQOLの向上
7	読み書きと羞明	講義	・MNREADの体験　・拡大について　・必要な倍率 ・眩しさの理解　・遮光眼鏡の合わせ方
8	中間試験		・ロービジョンケアの基本を知り、診断書、補装具などの理解を定着する

科目名	視能矯正学Ⅱ	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	芝田　理恵
		授業形態	講義		有		
（英）	Orthoptics Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	金曜日/1限　対面

講師紹介	保有資格：視能訓練士 大学にて視能訓練士の資格を取得。 病院、眼科医院にて豊富な実務経験を積み、専任講師として専門学校において教務を行い現在に至る。
目的	①視能矯正学の基礎を学ぶ。 ②弱視、斜視の理論の学びを実習科目の実施に繋げる。 ③視能訓練士への関心を高め、国家試験取得への意識付け行う。
科目概要	視能訓練士の専門分野である視能矯正学の基礎にあたる学問
到達目標	①斜視の各型を理解し、検査方法を知る。 ②斜視の各型を理解し、検査方法を知る。 ③「視能矯正学実習」や「見学実習」の土台となる斜視・弱視の基礎を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	視能学、視能矯正学	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	1年次の振り返り・斜視の各型①	講義	斜視の定義 斜視の分類 斜視の病因論
2	斜視の各型②	講義	内斜視 先天内斜視 後天内斜視
3	斜視の各型③	講義	内斜視 調節性内斜視
4	斜視の各型④	講義	外斜視 間欠性外斜視 恒常性外斜視
5	斜視の各型⑤	講義	交代性上斜位 その他の斜視
6	斜視の検査①	講義	眼位検査 単眼性眼位検査 両眼性眼位検査
7	試験対策	講義	振り返り・試験対策
8	復習試験	講義	筆記試験（講義内容全範囲から出題）
9	斜視の検査②	講義	眼球運動検査の種類 眼球運動の検査方法
10	斜視の検査③	講義	両眼視機能の検査の種類と目的
11	弱視の各型①	講義	弱視 弱視の定義 弱視の原因・分類
12	弱視の各型②	講義	弱視 弱視の各型 弱視の検査
13	弱視の各型③	講義	弱視の各型 弱視の感受性期間 弱視の診断
14	試験対策	講義	振り返り・試験対策
15	定期試験	講義	筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	眼科薬理学Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	渡邉　隆
		授業形態	講義		有		
（英）	Ophthalmic Pharmacology Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	月曜日/1時限

講師紹介	薬剤師として調剤薬局や老人施設などの現場で最新の情報を常に得られる環境に従事し豊富な実務経験を有する。また薬系の大学や専門学校で講師を務め、実際の点眼薬の実物を使ってより一層リアルに感じ、教科書の内容だけでなく最新の情報を授業に生かしていく。.
目的	国家試験では3～4問しか出題されない科目ですが、現場で使える知識を身に着ける。
科目概要	眼科の現場で使用される点眼薬の役割とその意義、また副作用について理解する。
到達目標	現場で使える知識を身につける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	点眼薬　クリニカルブック	事前事後学習とその内容	毎週の初めに前週で教わった内容の小テストを行う
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	講義	この科目の学習方法を理解する。またこの科目の意義を理解する。
2	点眼薬の基礎　その1	講義	点眼薬はどういうものでどのように作られているか、また点眼容器はどのように作られそれがどういう意味なのかを説明できる。
3	点眼薬の基礎　その2	講義	点眼薬の正しい使い方、保管方法、使用期限等を説明できる。
4	感染症治療薬　その1	講義	主な抗菌薬の薬品名と作用機序が説明できる。
5	感染症治療薬　その2	講義	主な抗真菌薬、クラミジア治療薬、抗ヘルペス薬の薬品名と作用機序が説明できる。
6	アレルギー治療薬	講義	主なアレルギー治療薬の薬品名と作用機序が説明できる。
7	角膜治療薬・ドライアイ治療薬	講義	主な角膜治療薬、ドライアイ治療薬の薬品名と作用機序が説明できる。
8	復習テスト	講義	2～7回目の内容
9	炎症治療薬	講義	主な炎症治療薬の薬品名と作用機序が説明できる。
10	緑内障治療薬　その1	講義	緑内障の発生原因や病態を説明できる
11	緑内障治療薬　その2	講義	主な緑内障治療法の薬品名と作用機序が説明できる。
12	白内障治療薬・散瞳薬	講義	主な白内障治療薬、散瞳薬の薬品名と作用機序が説明できる。
13	点眼麻酔薬	講義	主な点眼麻酔薬の薬品名と作用機序が説明できる。
14	期末テスト	講義	2～13回目の内容
15	期末テスト　解答解説	講義	

科目名	視能検査学Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	藤戸　茜
		授業形態	講義		有		
（英）	Orthoptic Examinations Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	月曜日/1限目

講師紹介	保有資格：視能訓練士 大学を卒業後、専門学校にて視能訓練士の資格を取得。 総合病院、眼科個人クリニックにて豊富な実務経験を有する。2024年より専門学校にて専任教員を務める。
目的	眼科における一般検査を学ぶ。 国試や臨床へ繋がる知識を身に付ける。
科目概要	正しい知識と技術を身につけることによって精度の高い検査結果を出すことができる。
到達目標	知識と技術を結びつけることによって知識の定着を目指す。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	視能学	事前事後学習とその内容	眼科検査一般の知識を身に付け、正常と異常・疾患を鑑別できるようになる。
参考図書	視能訓練士学科午前部		
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	外眼部検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 Hertel眼球突出計など外眼部の検査方法を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
2	涙器・涙液検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 シルマー試験など涙器・涙液検査方法を理解し、できるようになる。 異常を呈する疾患を知る。
3	角膜検査	講義	検査の種類を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
4	眼圧検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 検査の種類を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
5	隅角検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 検査の種類を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
6	細隙灯顕微鏡検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 検査の種類を理解する。
7	まとめ	講義	これまでの復習、テスト対策
8	中間テスト	講義	
9	眼底検査	講義	視器の構造と機能、正常値を復習する。 直像鏡、倒像鏡検査の検査方法を理解する 異常を呈する疾患を知る。
10	眼底撮影・検査	講義	OCT・眼底カメラについて学ぶ。 検査の種類を理解する。
11	眼底撮影・検査	講義	疾患別に検査結果を読み取れるようになる。
12	超音波検査	講義	Aモード、Bモードの検査方法を理解する。 検査の種類を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
13	蛍光眼底造影検査 眼窩画像検査	講義	検査の種類を理解する。 異常を呈する疾患を知る。
14	まとめ	講義	これまでの復習、テスト対策
15	定期テスト	講義	

科目名	生理光学実習Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	越田　愛生
		授業形態	実習		有		
（英）	Physiologic OpticsⅡ	時間数	60	授業回数	30	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	火曜　1.2限　対面

講師紹介	▸【越田　愛生】:視能訓練士 視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて豊富な実務経験を有する。 ▸【渡辺　忍】 :視能訓練士 視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて豊富な実務経験を有する。 ▸【椙岡　弥生】:視能訓練士 視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて豊富な実務経験を有する。 ▸【金上　千佳】:視能訓練士 眼科フォトグラファーを経て視能訓練士国家資格を取得。総合病院、個人クリニックでの豊富な実務経験を有する。
目的	必要に応じた検査の選択、正しい検査方法と記載、その結果の考察までができる。
科目概要	視能訓練士が行う検査のほとんどを占める視力検査・視野検査の実習授業
到達目標	基礎知識に基づいた視力検査ができるようになる。 視野異常のない動的視野検査ができるようになる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　■実技試験　□その他（　　）

教科書	検査ガイド・視能学・エキスパート検査学	事前事後学習とその内容	授業開始後に教科書を読み(もしくは動画を見る)予習をする。 毎回、小テストを行う。
参考図書			
特記事項	授業中の動画撮影・写真撮影は不可とする。 実習室の使い方などのルールを守り、授業を受けること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	オリエンテーション 小学校健診対策	実習	教員の紹介、年間スケジュールの確認等を行う。 小学校健診に向けて字ひとつ視力表を用いた視力検査を復習する。
3・4	小学校健診対策	実習	小学校健診に向けて小学生に対する声かけを意識した実習を行う。
5・6	視力検査 （クロスシリンダーを用いる方法） （乱視表を用いる方法）	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
7・8	近見視力 石原近点計を用いた調節力検査	実習	近見視力の測定方法・声かけについて学ぶ。
9・10	ゴールドマン視野検査・対座法・アムスラー	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
11・12	トポ・オフサルモ	実習	機械の操作方法・結果の見方について学ぶ
13・14	中間テストにむjけ練習	実習	これまで学んだ検査を復習し、中間テストに備え練習する。
15・16	中間テスト	実習	
17・18	中間試験のフィードバック	実習	試験での改善点を明確にし、技術向上を目指す。
19・20	視力検査 （雲霧法を用いる方法） （トリック法を用いる方法）	実習	臨地実習を意識した視力検査を学ぶ。
21・22	ゴールドマン視野検査 ハンフリー視野検査	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
23・24	OCT 眼底カメラ	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
25・26	視覚誘発電位（VEP） コントラスト・フリッカ ETDRS・瞳孔間距離（PD）	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
27・28	期末試験にむけ練習	実習	これまで学んだ検査を復習し、定期試験に備え練習する。
29・30	期末試験	実習	

科目名	生理光学実習Ⅲ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	越田　愛生
		授業形態	実習		有		
（英）	Physiologic OpticsⅢ	時間数	60	授業回数	30	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	火曜　1.2限　対面

講師紹介	▸【越田　愛生】:視能訓練士 視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて豊富な実務経験を有する。 ▸【渡辺　忍】 :視能訓練士 視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて豊富な実務経験を有する。 ▸【椙岡　弥生】:視能訓練士 視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて豊富な実務経験を有する。 ▸【金上　千佳】:視能訓練士 眼科フォトグラファーを経て視能訓練士国家資格を取得。総合病院、個人クリニックでの豊富な実務経験を有する。
目的	必要に応じた検査の選択、正しい検査方法と記載、その結果の考察までができる。□
科目概要	視能訓練士が行う検査のほとんどを占める視力検査・視野検査の実習授業
到達目標	基礎知識に基づいた視力検査がスムーズにできるようになる。 静的・動的視野検査ができるようになる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　■実技試験　□その他（　　）

教科書	視能学・検査ガイド・エキスパート検査学	事前事後学習とその内容	理解度を把握するため、また知識を定着させるため毎回小テストを行う
参考図書			
特記事項	授業中の動画撮影・写真撮影は不可とする。 実習室の使い方などのルールを守り、授業を受けること。□		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	スキア	実習	検査手技・結果の見方について学ぶ
3・4	ゴールドマン視野計 ハンフリー視野計	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
5・6	眼鏡視力・レンズメータ・二色テスト	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
7・8	視力検査 （レフを参考とした視力）	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
9・10	ゴールドマン視野計にて異常視野の検出	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
11・12	OCT 眼底カメラ	実習	1年で習った内容をもとに、声かけを含め上達を目指した練習にする。
13・14	中間テストにむけ練習	実習	基礎知識の復習し、正しい記載方法を学ぶ。 円滑に検査を行うための声かけを意識し、上達を目指す。
15・16	中間テスト	実習	
17・18	中間テストのフィードバック	実習	試験での改善点を明確にし、技術向上を目指す。
19・20	合同検査の準備	実習	合同検査の準備をする。検査の順序や動線、それぞれの役割を確認する。
21・22	合同検査の準備	実習	合同検査の準備をする。検査の順序や動線、それぞれの役割を確認する。
23・24	定期試験にむけ練習	実習	基礎知識の復習し、正しい記載方法を学ぶ。 円滑に検査を行うための声かけを意識し、上達を目指す。
25・26	定期試験	実習	
27・28	定期試験のフィードバック 合同検査の準備	実習	試験での改善点を明確にし、技術向上を目指す。 合同検査の準備をする。検査の順序や動線、それぞれの役割を確認する。
29・30	合同検査	実習	3年次の臨地実習を意識した手技、声かけを行う。

科目名	神経眼科学Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	高橋 理
		授業形態	講義		有		
（英）	neuroophthalmology Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	金曜日　3時限

講師紹介	保有資格：　歯科医師，歯学博士 略　　歴：　神経解剖学を専門研究分野として現場での豊富な実務経験を有する。学位論文テーマは三叉神経系，「マーティン神経解剖学，西村書店」の「前庭系と動眼系」章を2007，2015年に翻訳，雑誌「神経眼科」24(2)pp142-147(2007)に総説を依頼執筆，日本解剖学会と日本神経科学学会にて学会活動を今日まで継続した．
目的	視能訓練士という専門職として患者の要求に適確に対応する神経眼科学の知識，技能，態度を修得し，他の医療スタッフと円滑なコミュニケーションが可能な範囲にまで医学的な背景を学ぶ．さらに全身疾患を背景とする眼疾患についても理解を深める．
科目概要	眼科領域に必要な神経学および神経眼科学について体系的に学習する．
到達目標	1.　神経眼科疾患に関連する解剖学，生理学，病理学など基礎科目との関連の理解 2.　神経眼科疾患の眼症状，全身所見，原因疾患，および治療法の概略を修得
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	神経眼科診療のてびき	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について解剖体の一部を用いるので，写真撮影及び録音録画を許可しない。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	神経眼科の特徴	講義	1. 脳神経の概観 2. 先天性眼球運動障害
2	脳神経	講義	1. 眼球運動に関与する脳神経 2. 三叉神経，顔面神経，交感神経，副交感神
3	核，核下性眼球運動障害①	講義	1. 動眼神経　2. 滑車神経 3. 外転神経
4	核，核下性眼球運動障害②	講義	1. 動眼神経　2. 滑車神経 3. 外転神経
5	核，核下性眼球運動障害③	講義	1. 動眼神経　2. 滑車神経 3. 外転神経　4. その他，関連症候群
6	核，核上性眼球運動障害①	講義	1. 水平眼球運動障害　2. 垂直眼球運動障害 3. その他
7	核，核上性眼球運動障害②	講義	1. 水平眼球運動障害　2. 垂直眼球運動障害 3. その他
8	復習試験	講義	神経眼科学1～7の総復習，および知識の定着
9	眼　振	講義	1. 病的眼振　　2. 視運動性眼振 3. 異常眼球眼振
10	瞳孔異常	講義	1. 散瞳と縮瞳　　2. 瞳孔不同 3. 鑑別検査
11	視神経障害	講義	1. 視神経乳頭　　2. 視神経萎縮 3. 視神経疾患
12	視神経障害	講義	1. 視交叉，視索，外側膝状体 2. 側頭葉，頭頂葉，後頭葉　　3. 高次脳機能
13	基本診察①	講義	1. 眼球運動の診察 2. 眼瞼の診察
14	眼球運動の診察	講義	1. 眼球運動の診察 2. 眼瞼，眼球，瞳孔，視神経，視路の診察
15	定期試験	講義	神経眼科学Ⅰ・1～14の総復習および知識の定着□

科目名	眼疾病学Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	金上　千佳
		授業形態	講義		有		
（英）	Ophthalmology Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	水曜日/2時限

講師紹介	保有資格：視能訓練士、医学写真技師　大学病院で1年間眼科写真技師のもと研修をし、その後他大学病院にて臨床現場で眼底写真、蛍光眼底造影撮影、前眼部写真撮影に従事。約4年間の勤務の後フリーに転向。現在約10か所の病院と契約し、蛍光眼底造影をはじめ眼底写真撮影、前眼部撮影、光干渉断層計を担当しながら現場の視能訓練士に対して技術指導も行い、豊富な実務経験を有する。また、複数の専門学校で視能訓練士科の学生に対して眼疾病及び眼科写真術の講義を担当
目的	眼球及び眼底の解剖をきちんと理解し、正常眼底をしっかりと覚え、それを踏まえて様々な疾病の特徴を掴み画像を見ただけで疾患名が分かるように、また様々な眼底検査の基礎知識を身に着け、結果が理解できるようになる。
科目概要	様々な眼疾病の知識を身に着け、適切な検査を施行できるようになる為の講義
到達目標	疾病がわからないとどの検査を施行すればよいのか、また結果はどうなるのか理解できない。正確な検査ができる視能訓練士が現場では必要とされている。一流の視能訓練士は疾病をしっかりと理解し適切な検査及び正確な検査結果を得ることができる。また近年の国家試験にて疾病が多く出題されているが、画像が読めれば難しい問題ではなくなる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	現代の眼科学、眼科検査ガイド、眼科診療ガイド、レジュメ	事前事後学習とその内容	数多くの画像を見る
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	眼底の解剖復習	講義	眼底の解剖をいま一度復習し、網膜の構造などをしっかりと理解し正常眼底を頭に入れる
2	様々な眼底検査	講義	蛍光眼底造影や光干渉断層計など眼底検査を理解し、読影できるようになる。
3	蛍光眼底造影の基礎	講義	蛍光眼底造影の仕組み及び読影法を学ぶ。
4	フォトスリットランプ/網膜所見	講義	細隙灯顕微鏡の照明法を覚える。様々な眼底出血や白斑の違いを理解する
5	生活習慣病による眼底疾患1	講義	糖尿病網膜症の眼底特徴をつかむ
6	生活習慣病による眼底疾患2	講義	糖尿病網膜症の眼底特徴をつかむ
7	生活習慣病による眼底疾患3	講義	高血圧による眼底所見及び血管閉塞疾患について理解する
8	復習試験/その他の網膜疾患	講義	1～7回の内容/網膜剥離や血液疾患の特徴を掴む
9	黄斑部疾患	講義	黄斑部に異常がでる疾患の特徴、必要な検査及びその結果を理解する
10	ぶどう膜炎1	講義	ぶどう膜炎の基礎を学ぶ
11	ぶどう膜炎2	講義	3大ぶどう膜炎について学ぶ
12	緑内障1	講義	緑内障の種類を覚え、必要な検査及びその結果を読影できるようになる
13	緑内障2	講義	様々な緑内障の違いを理解する
14	網膜色素変性症	講義	遺伝疾患である網膜色素変性症の特徴、検査及びその結果を理解する
15	定期試験	講義	1～15回の内容

科目名	視能訓練学Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	越田　愛生
		授業形態	講義		有		
（英）	Orthoptics Ⅱ (Training)	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	月曜日/1限

講師紹介	2016年に視能訓練士国家資格を取得。個人クリニックにて豊富な実務経験を経て、2022年より日本医歯薬専門学校の専任講師として勤務。
目的	各種斜視の特徴（眼位・視機能・検査・治療）を理解する
科目概要	眼球運動異常・眼振
到達目標	特徴を正しく理解することで症状から異常の分類を予想し、必要な検査を考えることができる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	視能学・訓練学	事前事後学習とその内容	授業内容に対応した説明はダブルチェックシステムの動画などを活用して確認すること。
参考図書			
特記事項	各疾患の鑑別を重点的に講義していきます。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	麻痺性斜視 眼球運動神経・動眼神経麻痺	講義	眼球運動にかかわる神経系を確認する。 動眼神経麻痺の特徴を理解する。
2	麻痺性斜視 滑車神経麻痺	講義	滑車神経麻痺の特徴を理解する。 頭位異常、Parksの3stepを理解する。
3	麻痺性斜視 外転神経麻痺・全眼筋麻痺	講義	全眼筋麻痺・全身疾患と関係のある眼障害の特徴を理解する
4	筋原性斜視 重症筋無力症 慢性進行性外眼筋麻痺（ﾐﾄｺﾝﾄﾞﾘｱﾐｵﾊﾟﾁｰ）	講義	重症筋無力症の特徴を理解する 慢性進行性外眼筋麻痺の特徴を理解する
5	筋原性斜視 甲状腺眼症 外眼筋炎	講義	甲状腺眼症・外眼筋炎の特徴を理解する
6	筋原性斜視 固定斜視 Sagging　eye　syndrome	講義	固定斜視の特徴を理解する。 Sagging　eye　syndromeについて特徴を理解する。
7	まとめ	講義	これまでの復習、テスト対策
8	復習試験	講義	
9	筋原性斜視 Brown症候群・外眼筋繊維症	講義	Brown症候群・外眼筋繊維症の特徴を理解する。
10	機械的斜視：眼窩吹き抜け骨折 Duane症候群	講義	眼科吹き抜け骨折・Duane症候群の特徴を理解する。
11	眼振 生理的眼振・後天眼振	講義	眼振の定義を理解し、生理的眼振を体験する。
12	眼振 先天眼振	講義	先天眼振について理解する。
13	眼振の治療	講義	眼振の治療方法を理解する
14	まとめ	講義	これまでの復習、テスト対策
15	定期試験	講義	

科目名	視能矯正学実習Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	芝田　理恵
		授業形態	実習		有		
（英）	Orthoptics Ⅱ	時間数	60	授業回数	30	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	木曜日／1・2限　対面

講師紹介	▸【芝田　理恵】視能訓練士 大学にて視能訓練士の資格を取得。病院、眼科医院にて豊富な実務経験を有する。 ▸【正信　りさ】視能訓練士 視能訓練士国家資格を取得。総合病院、眼科クリニックにて豊富な実務経験を有する。 ▸【江頭　かをり】視能訓練士 視能訓練士国家資格を取得。大学病院、総合病院にて豊富な実務経験を有する。
目的	必要に応じた検査の選択、正しい検査方法と記載、その結果の考察までができる。
科目概要	眼位・眼球運動などの両眼視機能にまつわる検査の実習授業
到達目標	眼位・眼球運動が正しくスムーズに検査できる。 両眼視機能検査の知識を学び、検査方法を理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　■実技試験　□その他（　　）

教科書	視能学・眼科ガイド・エキスパート眼科学	事前事後学習とその内容	授業開始後に教科書を読み、予習をする。 毎回、小テストを行う。
参考図書			
特記事項	授業中の動画撮影・写真撮影は不可とする。 実習室の使い方などのルールを守り、授業を受けること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	小学校健診にむけた視力検査	実習	乳幼児ではなく、児童に対する視力検査をするうえで、どのような工夫が求められるかを考え、声かけや実技を練習する。0．1以下の視力検査の復習。
3・4	小学校健診	演習	杉並区の小学校で視力検査の手伝いをする。 児童に触れ、検査することで、検査の楽しさや理解させるための説明の仕方を学ぶ。
5・6	小学校健診振り返り	実習	小学校健診で学んだことをまとめ発表。
7・8	網膜対応検査・固視検査	実習	グループの中でそれぞれ担当検査を決め、その担当が理解した内容をメンバー全員ができるようにする。
9・10	網膜対応検査・固視検査	実習	グループの中でそれぞれ担当検査を決め、その担当が理解した内容をメンバー全員ができるようにする。
11・12	網膜対応検査・固視検査	実習	グループの中でそれぞれ担当検査を決め、その担当が理解した内容をメンバー全員ができるようにする。
13・14	中間テストにむけて練習	実習	これまでに学んだ検査について復習し練習する。
15・16	中間テスト	実習	
17・18	立体視検査 HESS	実習	眼位・眼球運動から、何を考え次の検査をするのかを理解する。
19・20	立体視検査 HESS	実習	眼位・眼球運動から、何を考え次の検査をするのかを理解する。
21・22	症例検討	実習	グループに分かれ各症例に対する担当を決め、その担当がメンバーを率いて必要な検査を行い、どのような結果になり得るのかを考え、実際の結果と比べ考察する。
23・24	症例検討	実習	グループに分かれ各症例に対する担当を決め、その担当がメンバーを率いて必要な検査を行い、どのような結果になり得るのかを考え、実際の結果と比べ考察する。
25・26	症例検討	実習	グループに分かれ各症例に対する担当を決め、その担当がメンバーを率いて必要な検査を行い、どのような結果になり得るのかを考え、実際の結果と比べ考察する。
27・28	期末試験にむけ練習	実習	これまでの検査を復習し期末試験にむけ練習をする。
29・30	期末試験	実習	

科目名	視能矯正学実習Ⅲ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	正信　りさ
		授業形態	実習		有		
（英）	OrthopticsⅢ	時間数	60	授業回数	30	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	木曜／1・2限

講師紹介	▸【正信　りさ】視能訓練士 視能訓練士国家資格を取得。総合病院、眼科クリニックにて豊富な実務経験を有する。 ▸【藤戸　茜】視能訓練士 大学を卒業後、専門学校にて視能訓練士の資格を取得。総合病院、眼科個人クリニックにて豊富な実く経験を有する。 ▸【江頭　かをり】視能訓練士 視能訓練士国家資格を取得。大学病院、総合病院にて豊富な実務経験を有する。
目的	必要に応じた検査の選択、正しい検査方法と記載、その結果の考察までができる。
科目概要	眼位・眼球運動などの両眼視機能にまつわる検査の実習授業
到達目標	症例により必要な検査が理解でき、正常値などの知識に基づいた検査をスムーズに行える。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　■実技試験　□その他（　　）

教科書	視能学・検査ガイド・エキスパート検査学	事前事後学習とその内容	理解度を把握するため、また知識を定着させるため毎回小テストを行う
参考図書			
特記事項	授業中の動画撮影・写真撮影は不可とする。 実習室の使い方などのルールを守り、授業を受けること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	大型弱視鏡 眼位・眼球運動検査	実習	1年次に習った角膜反射・眼位検査のみるべきポイントが理解できているか、検査目的は何か、正しく記載ができるかなどの復習に加え、眼球運動の正常値を知り、検査練習する。
3・4	大型弱視鏡 眼位・眼球運動検査	実習	眼位検査の定量が正しくできるか復習し、内斜視や上下斜視の定量の練習もしてみる。 眼球運動検査に加え輻輳検査の正常値を知り、練習する。
5・6	大型弱視鏡 眼位・眼球運動検査	実習	角膜反射・眼位検査・眼球運動検査・輻輳検査がスムーズに行えるように練習し、その結果から何が考えられるかを学ぶ。
7・8	大型弱視鏡 眼位・眼球運動検査	実習	これまでに学んだ検査について、正常値などの基礎知識の復習、正しい記載、スムーズに検査を行うための声かけを意識し練習する。
9・10	大型弱視鏡 眼位・眼球運動検査	実習	これまでに学んだ検査について、正常値などの基礎知識の復習、正しい記載、スムーズに検査を行うための声かけを意識し練習する。
11・12	大型弱視鏡 眼位・眼球運動検査	実習	これまでに学んだ検査について、正常値などの基礎知識の復習、正しい記載、スムーズに検査を行うための声かけを意識し練習する。
13・14	中間テストにむけ練習	実習	これまでに学んだ検査について復習しテストに備え練習する。
15・16	中間テスト	実習	
17・18	注視野 眼球突出度検査・スペキュラ・シルマー	実習	検査学で学んだ知識を実技として練習し理解を深める。
19・20	注視野 眼球突出度検査・スペキュラ・シルマー	実習	検査学で学んだ知識を実技として練習し理解を深める。
21・22	点眼・超音波検査 OCT・眼底カメラ	実習	検査学で学んだ知識を実技として練習し理解を深める。
23・24	点眼・超音波検査 OCT・眼底カメラ	実習	検査学で学んだ知識を実技として練習し理解を深める。
25・26	点眼・超音波検査 OCT・眼底カメラ	実習	検査学で学んだ知識を実技として練習し理解を深める。
27・28	期末試験にむけ練習	実習	これまでに学んだ検査について復習しテストに備え練習する。
29・30	期末試験	実習	

科目名	卒業研究Ⅰ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	藤戸　茜
		授業形態	演習		有		
（英）	Graduation Project Ⅰ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	月曜日/1限

講師紹介	保有資格：視能訓練士 大学を卒業後、専門学校にて視能訓練士の資格を取得。 総合病院、眼科個人クリニックにて豊富な実務経験を積み、2024年より専門学校にて専任教員を務める。
目的	卒業後に勉強をする方法をこの授業で行います。学校は建物でいうと基礎の部分を勉強します。臨床に出てからが本当の勉強です。 すなわち柱、梁、屋根の部分である臨床知識を自分自身で研磨して時代に合った知識をつけていくことが視能訓練士としての使命で患者さんへの貢献につながなっていきます。また、視能訓練士はチーム医療です。グループでの自分の役割や協力なども研究を通して学んでいきます。
科目概要	卒業研究Ⅱは臨床研究を行い、2月に研究発表会にて研究発表を行う。卒業研究Ⅰでは座学や研究準備を行う。
到達目標	学会での発表や臨床研究の方法を理解する 原著論文や総説を読んで理解する技術を学び、卒業後の学びに活かせるようになる。 グループワークを通して、チーム医療の大切さを理解しスキルを獲得する
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　□実技試験　■その他（　　）

教科書	授業資料	事前事後学習とその内容	授業は講義半分、班活動半分で行っていきます。 授業のはじめに小テストを行います。
参考図書			
特記事項	小テスト10%　倫理委員会30%　定期テスト60%で採点します。 **倫理委員会はスーツにて行います。**		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	研究の流れ・グループ決め	講義	研究の流れ　研究グループの班決めをする
2	研究計画書・研究内容の話し合い	演習	研究計画書について　どのような研究をしたいのか（背景や目的）話し合う
3	利益相反について	演習	利益相反について
4	学会参加	演習	第129回日本眼科学会総会に参加
5	学会参加	演習	第129回日本眼科学会総会に参加
6	倫理委員会について	演習	参考文献について・研究計画書作成③
7	不正行為について	演習	抄読会の方法・研究計画書作成④
8	論文を読もう①	演習	各班で論文を読む①・研究計画書⑤（中間提出）
9	論文を読もう②	演習	各班で論文を読む②・研究計画書⑥手直し
10	抄読会③	演習	各班で論文を読む③・研究計画書⑦手直し
11	倫理委員会準備・研究計画書完成	演習	研究計画書最終提出。
12	倫理委員会振り返り	演習	倫理審査委員会振り返り
13	研究の方法再確認・夏休み宿題について	演習	講義の内容のまとめと研究方法を再確認する。夏休みの宿題について
14	研究開始・タイムスケジュール	演習	研究のタイムスケジュール・研究を計画的に進めていく
15	定期試験	演習	講義、授業資料の内容からテストを行う

科目名	卒業研究Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	藤戸　茜
		授業形態	演習		有		
（英）	Graduation Project Ⅱ	時間数	60	授業回数	30	開講区分	後期
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	4			曜日/時間	水曜日/1限

講師紹介	保有資格：視能訓練士 大学を卒業後、専門学校にて視能訓練士の資格を取得。 総合病院、眼科個人クリニックにて臨床経験後、2024年より専門学校にて専任教員を務める。
目的	視能訓練士の学会である視能矯正学会の発表に準ずる形で、研究や発表を進めていきます。 学会の発表がどのように行われているのか、卒業後現場で自分自身で学ぶ力を養っていきます。 班の中で自分の役割を理解し、チーム医療を学んでいきます。
科目概要	自身が選択した研究課題に対して、他者に効率よく伝える手法を学び、問題解決能力を向上させる
到達目標	学会での発表や臨床研究の方法を理解する 原著論文や総説を読んで理解する技術を学び、卒業後の学びに活かせるようになる チームでの1つプロジェクトを完遂させる
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　□実技試験　■その他（　　）

教科書	視能学	事前事後学習とその内容	卒業研究Ⅰで勉強した内容を有効に使い、研究を行います 卒業後の勉強に役立つ内容となる
参考図書	視能訓練士学科午前部		
特記事項	卒業研究発表会を定期テストとする。 発表はスーツ着用のこと		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	講義・グループワーク	講義	研究を開始するにあたり 研究計画書に合わせて研究を実施する
3・4	講義・グループワーク	講義	研究を開始するにあたり 研究計画書に合わせて研究を実施する
5・6	グループワーク	演習	研究計画書に合わせて研究を実施する
7・8	グループワーク	演習	研究計画書に合わせて研究を実施する
9・10	グループワーク	演習	研究計画書に合わせて研究を実施する
11・12	グループワーク	演習	研究計画書に合わせて研究を実施する
13・14	グループワーク	演習	研究計画書に合わせて研究を実施する 予演会の準備をする
15・16	グループワーク	演習	研究計画書に合わせて研究を実施する 予演会の準備をする
17・18	予演会	演習	予演会を行い、研究の進捗具合、修正ポイントを確認
19・20	グループワーク	演習	発表内容の修正
21・22	予演会	演習	予演会を行い、研究の進捗具合、修正ポイントを確認
23・24	グループワーク	演習	研究結果の発表の準備
25・26	グループワーク	演習	研究結果の発表の準備
27・28	発表最終確認	演習	発表の準備
29・30	卒業研究発表会	演習	

	導入教育Ⅲ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	藤戸　茜
		授業形態	演習		有		
（英）	Introductory EducationⅢ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	通年
学科・コース	視能訓練士学科午前部	単位	2			曜日/時間	集中講座

講師紹介	保有資格：視能訓練士 大学を卒業後、専門学校にて視能訓練士の資格を取得。 総合病院、眼科個人クリニックにて臨床経験後、2024年より専門学校にて専任教員を務める。
目的	資格取得後も常に学ぶ姿勢が重要であることを認識する。 学外研修などを通して、視能訓練士として多様なニーズに対応ができる能力を習得する。
科目概要	視能訓練士としての社会的役割を理解し行動目標を明確にするオリエンテーション
到達目標	様々な体験を通して自身の知見を広げ、積極的に学ぶ姿勢を身につける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	事後学習として、小テストの復習や課題を実施することで、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書	通年		
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	講義	2年次のスケジュール確認
2	専門基礎テスト	講義	専門基礎テストの受験
3	生理光学検定	講義	生理光学検定の受検
4.5	国試対策	演習	クーパービジョン・オプテクス講義
6.7	実習報告会	講義	3年生の臨地実習について報告を受ける
8.9 10.11	就職ガイダンス	演習	就職活動の心構え・意識を身に付ける
12.13 14.15	実習オリエンテーション	講義	3年次臨地実習への心構え、実習定期について